

令和5年度第4回 四條畷市産業振興ビジョン推進協議会（会議録）

開催日時	令和6年2月5日（月） 午後3時～4時40分
開催場所	四條畷市役所 本館2階 ミーティングルーム
出席者	平井委員長、上村委員、猪飼委員、松川委員、上田委員、北田委員、 奥村委員、野島委員、成見委員 （事務局）市民生活部地域振興課
欠席者	小泉委員
傍聴者	なし
次第	1 パブリックコメントの結果について 2 四條畷市産業振興ビジョン（案）について 3 答申（案）について 4 その他

（平井委員長）

出席委員数及び会議が成立する旨の報告。

会議の公開の決定。

会議録の公表の決定。

傍聴者に関する報告。

1 パブリックコメントの結果について

（事務局）

四條畷市産業振興ビジョン（原案）に対するパブリックコメントの実施結果について報告。

（平井委員長）

パブリックコメントが0件というのは初めてのことでないが、危機感を持っている。産業振興は市役所のひとつの役割としては見えにくいですが、市民に関心を持っていただいたり、議論を巻き起こしていくためには、情報発信をしたり、市民からの声を受け取るというような双方向のやり取りが必要と感じている。

余談にはなるが、「選挙管理委員会の情報発信と若者の投票率の変化」をテーマに、SNSで積極的に発信している選挙管理委員会を調査した学生の卒業論文の評価を行ったが、さまざまな取り組みを行っているものの、結果としては、投票率に変化は見られなかったというような内容であった。当然、情報発信すれば投票率が変わるというものではないが、本件も含めてどのように情報発信していくのかについては、これからの課題だと思う。

その他、この件について、意見等はあるか。

（全員）

なし。

2 四條畷市産業振興ビジョン（案）について

（事務局）

四條畷市産業振興ビジョン（案）について、資料に基づき説明。

（平井委員長）

四條畷市産業振興ビジョンについては、10月に市から協議会に諮問をいただいている。社会情勢の変化に対応した四條畷市産業振興ビジョンの見直しについて、これまで議論を行ってきた結果として、市に答申という形で提出することになるため、協議会として四條畷市産業振興ビジョン（案）が妥当なものであるという決定を行うことから、この案についてご意見をいただきたい。

また、四條畷市産業振興ビジョン（案）に対してご意見のない場合でも、各委員の取り組みに関連する内容でも良いので、ご発言をいただきたい。

（野島委員）

四條畷市産業振興ビジョン（案）と直接関係はないが、歴史民俗資料館としては、入場者が年々増加することが理想ではあるが、コロナの関係もあり、前よりも入館者数は少なくなってきた。特にコロナの前は多かった子どもの見学が少なくなっているという現状がある。

（平井委員長）

市域外からも来られていたのか。

（野島委員）

主に市内の方で、以前は夏休み期間中の小学生の入館だけで2,000人が超えていた状況であった。小学生については、「子どもだけで学校校区から出ない」「校区外には、保護者と一緒に行く」といった指導がされているが、共働き世帯も多く、子どもたちだけで来館することは難しくなっている。

また、市民よりも他市や他府県の方々の来館が多い。

（成見委員）

先日テレビで忍陵神社が取り上げられていた。地元の人も忍陵神社一帯が古墳だということや、大坂夏の陣のときに徳川秀忠が陣を敷いたということを知らないので、テレビの放送をきっかけに知人に対しては発信を行った。

（上田委員）

下田原ファームでは、5か年計画で収益を上げる取り組みを進めており、課題としては、少子高齢化を含め、人材確保が挙げられる。

小麦を戦略商品としており、麦踏体験等も行っているが、すぐには実績にはつながらない。小麦を中心に取り組みを進めるなかで、今後の戦略商品についても考えていく。

（平井委員長）

四條畷の農業全体を見た場合、やはり人材の問題が大きいのか。

（奥村委員）

高齢化が進んでおり、これまで農業まつりに出品する商品はかなりの部分を四條畷の1地区から出荷していたが、現在はゼロの状態である。10年、20年先のことを考えると、どう人材を育成していくか、担い手の問題が大きい。

商品の販売については、各農協店舗でも販売を行っているが、更に周知を行うため、幟等を設置し、PRを行っている。

(平井委員長)

商業分野は、この10年程で変わってきたという印象はあるか。

(松川委員)

高齢化は当然あるが、逆に若い方が商売を始めているというところもあるので、入れ替わりは一定あるものと思われる。

コロナ禍明けは徐々に落ち着きつつあると思われるが、店舗が抜けているところもあるので、新たに入ってきて、定着して続けていただければ、商店街が衰退することもない。やはり空き店舗がない状況が理想である。

(北田委員)

商店街の店舗の内容としては変わった印象があり、各店舗についても長続きしていないところもあり、定着していないように感じる。

(松川委員)

コロナ禍前後で店の雰囲気は変わっている。

(平井委員長)

変わることは新陳代謝とも捉えることもできるが、定着しないのは課題である。商店街については、駅前の商店街を活性化するためには空き店舗をどうにかしなければいけないという議論が昔はよくされていた。

(猪飼委員)

商店街の取り組みについては、何年か前は商店街を盛り上げていこうと金融機関も取り組んでいたが、今の課題は売上げだけでなく高齢化もあり、金融機関や商店街側と事業者との間で温度差があるところもある。

だからといってそのままにはできないので、創業等につなげていきたいと考えており、不動産や人材を紹介できるよう、人材会社と連携し、体制を整えているところ。課題等の傾向としては、特に介護分野において人材確保に苦戦しており、募集にあたりネット広告等も活用しているが、採用に至らなかったというケースを聞いている。事業承継に関する発信も行っており、相談が少しずつ増えてきている。

(平井委員長)

国の中小企業施策としても、事業承継の取り組みが進められている。

(上村委員)

コロナ禍が3、4年続いたなかで、商工会並びに商工会議所を含め、中小企業や小規模事業者がほとんどであるが、輸出関連については業績が伸びている一方で、物価の高止まり傾向が続いており、事業承継に至る前に廃業されるところが多く出てきている。

以前の会議でお伝えさせていただいたが、技術を伝えることなく廃業されており、その事業者が辞めてしまうと誰もその物を作ることができない状況になることから、事業継承に関しては、大阪府を含め、力を入れていると感じている。

事業者としては、コロナ禍の厳しい状況からまだ立ち直れていないところも多数あることから、中小企業や小規模事業者に対し、しっかりと助成していただけるよう

お願いをしているところである。

(平井委員長)

事業承継というと、経営権をどのように渡すかというところに焦点が当たりがちではあるが、技術を含め、培った資産をどのように伝えていくかというかという視点は重要である。

(上村委員)

廃業される事業者は人知れず辞められるところが多く、新たに別の事業者を探すとすると調達に大変苦勞する。

(平井委員長)

新規創業に関する課題や傾向等はどのような状況か。

(猪飼委員)

女性の創業相談や副業に近い内容が増えており、過去は事業計画の相談が多かったが、その手前の相談が多い印象である。

(平井委員長)

特に若い世代はネットで収益化するという発想を持っていると思うが、経営となると感覚が違う印象がある。

(猪飼委員)

相談時も税理士に相談する前段階の情報提供を行っている状況である。

(平井委員長)

そういうところに起業化し、成長していく種が埋まっているように思う。ビジネスアイデアを考える授業を担当しているが、資金計画の視点が弱いものの、アイデアとしては面白い内容が出てきている。そのような発想とうまくつながることで、例えば商店街でポップアップストアから始めるというような取り組みにもつながるのではないか。

(松川委員)

商店街の空き店舗が多い時期は、一日だけ場所を借り、手作り商品の販売をしておられる方もおられたが、高齢の方が多かった。逆に若い世代であれば、ネットなどを上手に利用し、イベント等で出店できるのであれば参加してもらえるのではないか。

以前、エリア会議で行った「なわてリング」でも、ひとつの空き店舗に3、4軒入ってもらって形で募集し、手づくり商品の販売を行ったこともあり、そういう場を探している方は結構おられると思う。その方が空き店舗を活用し、継続してされるかということ、なかなかそうはならないが、商店街の賑わいのためにはそういう取り組みも必要であるとは考えている。

以前に比べると、空き店舗は目立っておらず埋まってきている。

(平井委員長)

ビジョンの基本戦略ではゴールの目標設定をしており、大きな項目としては、売上額や出荷額を上げていくということになるが、人材、担い手をどう確保し、育てていくかという点はすべての産業に共通している。

(松川委員)

商業では、年間販売額1億8,600万円ほどで、大きいスーパーであれば、年間何億という金額になるだろうが、商店街の店舗で年間の売上が1,000万以上もない店舗も結構あるのではないかと。金額的にはもっと小さい店舗も多く、そういったところは辞めようと思えば、簡単に辞めれてしまうので、営業を続けてもらえるような仕掛けは必要になってくる。

(平井委員長)

以前は、インターネットを活用してと言うと事業者の抵抗感も強かったと思うが、生活に浸透しているので、どのように使っていくかもひとつの考え方ではないか。

(松川委員)

ネット販売は、商品管理等の課題もあり、我々の店舗の規模では難しさがある。手作り商品についても、ネットショップを作るよりも、いわゆるフリマアプリで販売するところが多いようである。そういう販売方法が実績値の向上に貢献するかというと、それは難しいと思うが、そういう方にポップアップストアやイベントに参加してもらうことで、商店街の賑わいにもつながるのではないかと。

(平井委員長)

先ほどの話にもあったが、遠くから四條畷市に来られるという側面もあるし、逆に域内の人でも知らないことが多いのであれば、新たな発見を地域の中でして、地産地消を盛り上げていくというような方向性もある。

ネット販売のご意見もあったが、便利なエリアだからこそネットスーパー等を活用する方は少ないという側面もあるではないか。

(北田委員)

近所では、ネットスーパーではなく、生協の宅配を利用している方が多い印象である。高齢化で買い物に行くのが大変になり、個別宅配を利用し、若い世代は大きなショッピングモール等をする影響で、今後商店街の利用者が少なくなるかもしれない。

(平井委員長)

地方に行くと買い物難民が大変多いという問題がある。四條畷市は便利どころだが、距離が何キロでなくても、数百メートルでもそのような問題があるのかもしれない。

(北田委員)

市内では田原地域の店舗が少なく、どのようにしていくかは市全体の課題であると思う。

(平井委員長)

買い物難民問題が深刻な地方では、移動に課題があるため、コミュニティバスを運行しているが、それも採算が難しい状況である。産業分野では商業の課題でもあるが、市民生活全体の問題でもあるので、両面で考えなければいけない。

(松川委員)

宅配に関しては、できればやりたいという店舗もあるが、小さな店舗ではハードルが高すぎる。大手では近隣でもスーパーが宅配の取り組みを始めていると聞いているが、小さい店舗では、配達先が1、2軒であれば配達している程度ではないか。

(平井委員長)

神戸市西部をフィールドに生協の「買いもん行こカー」という買い物支援の取り組みを担当する学生が調査していたが、四條畷市においても、人口構成等に合わせた買い物の仕方が店舗の売上につながる可能性もある。

その他、産業振興ビジョン(案)に対し、修正が必要な箇所など、ご意見はあるか。

(上田委員)

農業分野においては、有害鳥獣対策として罠を仕掛け、イノシシ等を捕獲している。田原地域にはそれほどイノシシが多くないが、逢阪地区は竹林が多いこともあり、イノシシの数が多く、一人の方が年間 50 頭ほど捕獲している状況である。また、イノシシは集団で行動しており、捕獲できていないイノシシも相当数いると思われる。竹林の管理は個人では難しく、また、農地で被害に遭うと耕作意欲も下がってしまい、状況としては深刻である。

(平井委員長)

対策等は講じられている状況か。

(事務局)

有害鳥獣については、本市では協議会を立ち上げ、対策をしていただいているところである。また、四條畷市産業振興ビジョン(案)においても、基本戦略に基づく施策の主な取り組み例に鳥獣被害防止策の充実を掲げている。

(上田委員)

行政においても可能な範囲で取り組んでいただいていると思うが、根絶しようとする竹自体を里山の状態に戻さなければ難しいと感じている。耕作放棄されると竹が生え、有害鳥獣の被害につながっていく。

(平井委員長)

お互いのノウハウや他地域の対策事例が有効でとなることもある。私は、周りに情報系の先生が多い分野で仕事をしているので、例えば AI を活用するなど、IT でどう解決するかという発想もある。

(上田委員)

有害鳥獣対策の罠を仕掛けた後、無線でチェックできるシステムはあるが、なかなか思うようには作動しておらず、定期的に見回る必要がある。

(平井委員長)

その他、ご意見はあるか。

それでは、本日の資料として現在提示されている「四條畷市産業振興ビジョン(案)」について、四條畷市産業振興ビジョン推進協議会として承認してよいか。

(全員)

異議なし。

(平井委員長)

それでは、以上をもって、本協議会の決定とする。

3 答申(案)について

(平井委員長)

先ほど、本協議会としての決定した四條畷市産業振興ビジョン（案）を市へ答申という形でお返しさせていただくに際しての鑑となる文書について、案文を作成しており、委員の皆さまにご確認いただきたい。

（上田委員）

4段落目内の観光については、括弧書きとした方が良いのではないか。

（平井委員長）

ご意見のとおり修正する。

その他、ご意見はないか。

（全員）

なし。

（平井委員長）

それでは、先ほどご指摘いただいた箇所を修正したうえで、市に答申を行うこととしてよいか。

（全員）

異議なし。

（平井委員長）

それでは、修正後の答申書の鑑に、先ほどご決定いただいた四條畷市産業振興ビジョン（案）を添え、市に答申を行うこととする。

4 その他

（平井委員長）

今回の議事録について、事務局が作成したものを一度ご確認いただいた後、最終的に私に一任ということで進めさせていただいてよいか。

（全員）

異議なし。

（事務局）

令和6年度四條畷市産業振興ビジョン推進協議会スケジュールの説明。

四條畷市産業振興基本条例改正の報告。

四條畷市産業振興ビジョン推進協議会条例改正に伴う委員再選定の報告。

（平井委員長）

それでは、本日の会議はこれをもって終了とする。

以上